

## ■ 法学Aシラバス

### 授業情報

開講年度	2018年度	開講箇所	政治経済学部
科目名	法学A 01		
担当教員	水島 朝穂		
学期曜日時限	春学期 01:木2時限		
科目区分	入門:必修以外	配当年次	1年以上
使用教室	01:10-109	キャンパス	早稲田
			単位数 2

### シラバス情報

#### 授業概要

法律を好きになれとは言わないが、少なくとも「大切な隣人」として長く付き合っていけるようになってほしい。そのためのお手伝いをします。法律学は体系的学習が期待されます。でも、この講義では法律の体系を満遍なく教えることはしません。一年間通して参加すれば、この授業の「見えざる体系」が見えてくるでしょう。あれこれの法的知識よりも(もちろん、これは大切ですが)、法的な問題意識や法的思考を重視します。食わず嫌いが一番いけません。「旬のネタ」の鮮度を保ちつつ素早く調理し、意外な「皿」にもりつけて、教室で皆さんの前に提示します。

「なぜこれが？」と思われるものも、ちゃんと法学に関係していることがやがて分かります。私はとことん「ネタ」にこだわるので、何が出てくるかは講義が始まってからの楽しみ。インターネットで収集した最新の法的問題についても、講義で紹介します。だから、リジッドな講義案は作りません(後に掲げるものは便宜上のもの。予告なしに変更されます)。時代の呼吸を感じながら、法学の面白さを体験することができるでしょう。毎回、ホオーツという「驚きと発見」の瞬間が一回はあるはず。だから「ホオーツ学」。

それと、この講義では新聞が必須アイテムです。毎回の講義の冒頭の10分間を使い、その週に起きた「事件」の法的解説をやるので、必ず新聞を読んで授業に臨むこと。私の新聞解説は、各紙の比較や、版の違い、ベタ記事にもこだわります。担当者のホームページ(<http://www.asaho.com/>)は毎週月曜日に更新されるので、講義前に必ずチェックして臨んでください。

#### 授業の到達目標

日々の生活のなかで法的な問題を発見し、キャッチするとともに、それを少しでも法的に考えることができるようにする。六法を活用できるようにする。新聞の批判的、比較的な読み方を身につける。

## 授業計画

- 1: 第1回  
イントロダクション 法とは何か
- 2: 第2回  
警察官職務執行法を素材としたケーススタディ
- 3: 第3回  
法と道徳
- 4: 第4回  
法と正義
- 5: 第5回  
法の解釈
- 6: 第6回  
国家と法(1) 総論
- 7: 第7回  
国家と法(2) 人権
- 8: 第8回  
国家と法(3) 統治
- 9: 第9回  
国家と法(4) 平和主義
- 10: 第10回  
犯罪と刑罰(1) 犯罪とは
- 11: 第11回  
犯罪と刑罰(2) 死刑
- 12: 第12回  
犯罪と刑罰(3) 刑事手続
- 13: 第13回  
裁判員制度(1)
- 14: 第14回  
裁判員制度(2)
- 15: 第15回  
理解度の確認(試験)

**教科書** 水島朝穂『18歳からはじめる憲法(第2版)』(法律文化社)を使用します。デーリー六法(三省堂)クラスのを必ず持参すること。教材として、必要に応じてプリントを配布します。

**参考文献** 水島朝穂『はじめての憲法教室』集英社新書  
水島朝穂『ライブ講義 徹底分析 集団的自衛権』岩波書店  
その他は、授業のなかで適宜紹介します。

割合	評価基準
----	------

**成績評価方法** 試験: 80% 論述問題。暗記力ではなく、法的思考を問うような出題の仕方をします。  
平常点評価: 20% 出席および任意レポートを考慮する。なお、任意レポートは、参考文献や授業中に紹介する文献等から自由に選び、「書評」として論ずること。レポート用紙2枚以上。授業前に教壇前に提出のこと。最終締切りは7月12日。

**備考・関連 URL** 講義担当者のホームページは毎週月曜に更新されるので、それを必ず読んで講義に臨むこと。  
<http://www.asaho.com/>  
関連 URL:  
<http://www.asaho.com/>

## ■ 法学 B シラバス

### 授業情報

開講年度	2018 年度	開講箇所	政治経済学部
科目名	法学B 01		
担当教員	水島 朝穂		
学期曜日時限	秋学期 01:木2時限		
科目区分	入門:必修以外	配当年次	1年以上 単位数 2
使用教室	01:10-109	キャンパス	早稲田

### シラバス情報

**授業概要** 法学 B では、法学 A で学んだことを前提にして、さらに、新しい世紀の法学の課題と問題について講義していきます。法学 A と同様、

あれこれの法的知識よりも、法的な問題意識や法的思考を重視します。とことん「ネタ」にこだわるので、何が出てくるのかは講義が始まってからのお楽しみ。インターネットで収集した最新の法的諸問題についても、講義で紹介します。だから、リジッドな講義案は作りません(後に掲げるものは便宜上のもの。予告なしに変更されます)。時代の呼吸を感じながら、法学の面白さを体験することができるでしょう。毎回、ホォーという「驚きと発見」の瞬間が一回はあるはず。だから「ホォーッ学」。

在外研究でドイツ・ボンにいたころに入手した「冷戦グッズ」や「ポスト冷戦グッズ」など、法的、政治的、歴史的な資料や「お宝」も講義のなかで見せたいと思います。

法学 A で「癖」になった新聞をさらに重視します。講義の冒頭の 10 分間を使い、その週に起きた「事件」の法的解説をやるので、必ず新聞を読んで授業に臨むこと。

担当者のホームページ (<http://www.asaho.com/>) は毎週月曜日に更新されるので、講義前に必ずチェックして臨んでください。

## 授業の到達目標

日々の生活のなかで法的な問題を発見し、キャッチするとともに、それを少しでも法的に考えることができるようにする。六法を活用できるようにする。新聞の批判的、比較的な読み方を身につける。

## 授業計画

- 1: 第1回  
イントロダクション
- 2: 第2回  
市民と法(1) 法的人格
- 3: 第3回  
市民と法(2) 所有権
- 4: 第4回  
市民と法(3) 契約自由の原則
- 5: 第5回  
市民と法(4) 過失責任主義
- 6: 第6回  
消費者と法(1) クーリングオフ
- 7: 第7回  
消費者と法(2) マルチ商法など
- 8: 第8回  
家族と法(1) 婚姻(同性婚も)
- 9: 第9回

家族と法(2) 離婚・相続

10: 第10回

社会保障と法

11: 第11回

雇用と法

12: 第12回

国際社会と法(1) 国際組織

13: 第13回

国際社会と法(2) 人権の国際化

14: 第14回

国際社会と法(3) 平和維持活動

15: 第15回

理解度の確認(試験)

教科書

テキストは使用しません。デーリー六法(三省堂)クラスのものを持参すること。必要に応じてプリントを配布します。

参考文献

水島朝穂『18歳からはじめる憲法(第2版)』法律文化社

水島朝穂『はじめての憲法教室』集英社新書

水島朝穂『ライブ講義 徹底分析 集団的自衛権』岩波書店

その他は、授業のなかで適宜紹介します。

割合	評価基準
----	------

試験: 80% 論述問題。暗記力ではなく、法的思考を問うような出題の仕方をします。

成績評価方法

平常点評価: 20% 出席および任意レポートを考慮する。なお、任意レポートは、参考文献や授業中に紹介する文献等から自由に選び、「書評」として論ずること。レポート用紙2枚以上。授業前に教壇前に提出のこと。最終締切りは12月13日。

関連科目: 法学Aを履修していることが望ましい。

講義担当者のホームページは毎週月曜に更新されるので、それを必ず読んで講義に臨むこと。

備考・関連 URL <http://www.asaho.com/>

関連 URL:

<http://www.asaho.com/>